新聞

06.1 No.104
発行 相馬日馬

今年も相馬村よろしく

二〇〇六年、あけましておめでとうございます。皆様方もお元気で新年をお迎えのことと存じます。

相馬は、雪また雪の新年の幕あけでした。十二月五日に三十年振りとかの大雪、それから一週間に一回の雪が降り、早くから冬眠生活になってしまい、新年の賀状を失礼してしまいました。我が家の住猫「JUN」と、コタツの中で、一日中、いや毎日毎日眠りこけています。そんなスタートでしたが、今年も相馬をよろしくお願い致します。

さて、昨年は、大きな災害と期待をかかえての年となりそうです。私たちの生き方」を問われる年となりそうです。

三月には「合併」という「新相馬村」へ、どうなるのか不透明な状況で、明るい希望が見いだせません。が、相馬での生活が続く限り、この村を住みよくありません。

相馬の自然の中での暮らし、田舎の生活に、ぜひをおめて、村に恋して一年を過ごしたいとおもいます。

具体的には、今年は婦会を継続している、独立村づくりです。

相馬村よろしく

そもそも相馬村は、相馬村」として、スタートすることです。村がなくなる三月に独立村「活動、相馬村」として活動していこうとしています。

私たちの力では、大きな事は出来そうにもありません。が、村の生活を楽しく、面白くすごせるようにしたいとおもいます。

そうすることで田舎＝相馬村がなくならない様に、小さな灯をともし続けることにより、時間の流れを次につなげていけるものとおもいます。

田舎＝相馬のよさは、自然がいっぱいだけではなく、時間の流れがゆっくりしています。そして、なにより、人と人のつながりが一番だとおもいます。

今より、もっと人口が多かった時でさえ、お互いに支えあい、助けあって生きていました。お金だけで解決するのではなく、汗をかき、共に生きている、生きている為に、手と手をつないだ相馬山村・住民と住民の声、元気な声がする村づくりが出来ればいいなあとおもいます。

村民一人ひとりが、自分の村に誇りを持って生き、自慢できる村にする為には、他人まかせの村づくりではダメだとおもいます。

自分が楽しみたい村に自分がするにはどうかとおもいます。

そして、村内ばかりでなく村外なども相馬の村民として村づくりに参加して頂ければより大きな可能性が広がっていくとおもいますので、よろしくお願い致します。

村外の皆さんや相馬大好き人、自然、田舎の好きな皆さんとの交流、参加を頂き、文字通りの、参加する村づくりが出来ればと言う事もしてです。

まあ、本来の村づくりの基本にもどるという事でもありますが。

言うは易しこそはありますが、スタートに私たち程度の一歩を踏みだしたいとおもいます。

ごんご新聞と昨年一〇〇号を突破した多くの人に励まされ、もう私だけの気持でスタートする事は出来なくなってきました。

また、新たな気持で、今年度相馬をお伝えしていきたいとおもいます。

どうか、今年も相馬とてんご新聞をよろしくお願い致します。

また、「池彩」相馬村への参加もよろしくお願い致します。

相馬の山々　三嶺